

医療機関の具体的な対応方針（西部構想区域）

○西部構想区域の現状

医療機能	現状			プランを反映		
	必 要 病床数	病床機能 報告 2018	差	必 要 病床数	病床機能 報告 2025	差
高度急性期	439	134	△305	439	316	△123
急性期	1,450	2,619	1,188	1,450	2,425	994
回復期	1,596	876	△739	1,596	947	△668
慢性期	1,118	1,705	587	1,118	1,569	451
休棟中		209	209		244	244
計	4,603	5,543	940	4,603	5,501	898

○病床の再稼働、公的医療機関等 2025 プラン及び新公立病院改革プラン変更見込

病院名	病床機能報告 (2018 年)		病床機能 (2025 年)		病床再稼働及びプランによる影響
宇多津病院	回復期	0	回復期	56	・休棟中病床の再稼働 ・回復期 0 床 → 56 床 ・慢性期 38 床 → 0 床 ・休棟中 18 床 → 0 床
	慢性期	38	慢性期	0	
	休棟中	18	休棟中	0	
	計	56	計	56	
三 豊 市 立 永 康 病 院	回復期	50	回復期	46	・非稼働病床の廃止 ・回復期 50 床 → 46 床 ・慢性期 48 床 → 46 床
	慢性期	48	慢性期	46	
	計	98	計	92	

○構想の方向性に沿う具体的な対応方針

- ・宇多津病院
- ・三豊市立永康病院

病床の再稼働を踏まえた今後の医療機関としての役割等について

議論の論点	医療機関の役割等																						
①2025 年を見据えた構想区域において担うべき医療機関としての役割	2025 年における役割																						
	<table><tr><td>がん</td><td>脳卒中</td><td>疾患心血管</td><td>糖尿病</td><td>疾患精神</td><td>救急</td><td>災害</td><td>へき地</td><td>周産期</td><td>小児</td><td>在宅</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	がん	脳卒中	疾患心血管	糖尿病	疾患精神	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅											
	がん	脳卒中	疾患心血管	糖尿病	疾患精神	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅												
※プラン等に記載された今後の役割について該当する項目に「○」を御記入ください。																							
1) リウマチ・膠原病、腎臓病の専門性を活かし、引き続き現在の医療機能の質向上を図り地域における役割を担いたい。 2) 専門性を活かすためには、在宅医療や介護、療養との連携は不可欠で、在宅医療を推進することも求められている。この対応を図るため、リハビリテーションにも工夫を凝らし、円滑に在宅医療等と連携が取れるように、回復期機能を充実させることで、地域包括ケアシステムの役割の一端を担う活動を目指す。 3) 在宅患者の急性増悪時の円滑な受け入れ、増悪後の回復に向けた取り組みを強化させ、在宅推進を図りたい。 4) 専門性を活かし、医師や看護師などの養成における研修の場として、施設を提供したい。																							
②2025 年に持つべき医療機能ごとの病床数	(床) <table><tr><td></td><td>高度急</td><td>急性期</td><td>回復期</td><td>慢性期</td><td>休床</td><td>計</td></tr><tr><td>現在</td><td></td><td></td><td></td><td>38</td><td>18</td><td>56</td></tr><tr><td>2025 年</td><td></td><td></td><td>56</td><td></td><td></td><td>56</td></tr></table> (考え方) ・ 難病と共に高齢化や合併症に伴い ADL 機能など重点的に対応するケースも増加することが想定される。回復機能を充実させるため、移転病床も含め全病床を回復期機能病床として活用することを検討している。		高度急	急性期	回復期	慢性期	休床	計	現在				38	18	56	2025 年			56			56	
	高度急	急性期	回復期	慢性期	休床	計																	
現在				38	18	56																	
2025 年			56			56																	
③非稼働病棟について、今後の方向性、構想との整合性の確保（※）	(今後の方向性) ・ 2025 年までに急性期病床として再稼働予定であった休棟病床（18 床）について、回復期機能病床として再稼働する予定である。 (地域医療構想との整合性の確保) ・ 西部構想区域で不足する回復期機能の病床を充実させる計画となっており、地域医療構想の方向に沿った計画と認められる。																						

(※) ③の記載対象・・・病棟が全て稼働していない病棟を有する医療機関が記入対象。

(平成 30 年度病床機能報告において報告した平成 30 年 7 月 1 日時点の医療機能を「5 休床中、休床後の再開の予定なし、休棟・廃止予定」と報告した医療機関等)

(医療機関名：三豊市立永康病院)

新公立病院改革プラン、公的医療機関等 2025 プランを踏まえた
今後の医療機関としての役割等について (変更)

議論の論点	医療機関の役割等										
①2025 年を見据えた構想区域において担うべき医療機関としての役割	2025 年における役割										
	がん	脳卒中	疾患心管	糖尿病	疾患精神	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅
	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	本院が北三豊地域において担っていく機能は以下のとおりである。										
	①初期から 2 次までの救急医療機能										
	②高度急性期医療機関での急性期治療を脱した患者へ回復期および維持期の医療を提供する機能										
	③在宅での医療・福祉を他施設との連携によって推進する地域包括ケアシステムの中心的な役割										
	④精神科医療においては、香川県西讃地域での中核的な機能										
	⑤公立診療所や島しょなどへき地医療に対する支援										
	⑥地域の医療従事者への研修										
②2025 年に持つべき医療機能ごとの病床数	(床)										
		高度急	急性期	回復期	慢性期	休床	計				
	現在			50	48	42	140				
	2025 年 (H30 報告)			50	40		90				
	2025 年 (今回見直し)			46	46		92				
	※精神病棟（現：59 2025：30）										
	（考え方）										
	建物及び設備の老朽化並びに耐震基準の問題により、2022 年 1 月を目途とする病院改築を計画している。										
	病床数については香川県地域医療構想を踏まえ、病床稼働状況や人口減少を勘案し、一般病床を 92 床（内 42 床休床）から 46 床に、慢性期病床を 48 床から 46 床（内 23 床は地域包括ケア病棟）に減少することとしている。										
	③非稼働病棟について、今後の方向性、構想との整合性の確保（※）	②2025 年に持つべき医療機能ごとの病床数のとおり									

(※) ③の記載対象・・・病棟が全て稼働していない病棟を有する医療機関が記入対象。
(平成 30 年度病床機能報告において報告した平成 30 年 7 月 1 日時点の医療機能を「5 休棟中、休棟後の再開の予定なし、休棟・廃止予定」と報告した医療機関等)